

# AMCoR

Asahikawa Medical College Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

漢方医学 (2007.07) 31巻3号:125~127.

難治性舌痛症に対し葛根湯が有効であった1例

加藤育民, 千石一雄

# Case Report

ケース・レポート

## 難治性舌痛症に対し 葛根湯が有効であった1例

加藤 育民\*, 千石 一雄\*

舌に他覚的異常を認めないものの、舌先端や縁に痛みを訴える“舌痛症”患者が、近年増加している。原因として、感染症、口腔乾燥、血液中の垂鉛欠乏、心因性やホルモンのアンバランスなどが報告されている。難治性経過をとり、多数の医療機関を受診される症例も認められる。また、発症が更年期の女性に多いことから、更年期外来(産婦人科)を受診し、舌痛症状を訴える症例も認められる。今回、長期間舌痛に苦しんだ症例に葛根湯が著効した。難治性舌痛症に対し、漢方薬は有用な治療方法の一つと考えられた。

### はじめに

更年期障害発症時期である40～50歳代の女性は、男性ならびにその他の年代の女性と比較して種々の症状が多発することが知られている。舌痛症も50歳以降の女性に多く発症することが報告されている。治療法として、含嗽、ビタミン剤、消炎鎮痛剤、漢方薬療法、神経ブロック療法等が行われているが、難治性の経過を取る場合が多く有効な治療法は確立されていない。

今回、当科において、4年間の舌痛を訴え6施設の医療機関を受診したものの軽快しなかった難治性舌痛症患者に、葛根湯が著効した症例を経験したので若干の文献的考察を加え報告する。

### 症 例

患 者：54歳女性，48歳閉経，2回経妊，2回経産，身長153cm，体重46kg。

既往歴：特記すべきことなし。

現病歴：2001年1月頃より2005年6月まで発汗，頭痛，肩凝り，不眠を認め，近医産婦人科受診し，更年期障害の診断で内服治療を受けていた。2003年8月より左側舌側縁部位に舌痛を認め，6施設の医療機関を受診するが症状は軽快せずいた。2006年3月，更年期障害治療希望で当科更年期外

来を初診された(表1)。

主 訴：頭痛，肩凝り，嘔吐，舌痛。

経 過：2006年3月；エストラジオール，アセトアミノフェン，酒石酸ゾルピデム，クロチアゼパムを処方後，数週で舌痛以外の症状は軽快した。5月，舌痛治療目的で葛根湯(TJ-1)7.5g/日分3を追加処方，2週目以降より身体の調子が良くなり，舌痛症状も軽快した。

2007年3月現在，上記処方継続中で，アセトアミノフェン，酒石酸ゾルピデムの使用頻度は減少し，副作用を認めずに舌痛症状は軽快している。

### 考 察

舌痛症とは、「舌痛を主訴とし，他覚的にも異常が認められず，また，臨床検査でも特に異常が認められないにもかかわらず，慢性持続的な表在性，限局性自発痛を舌に訴えるもの」と定義されている<sup>1)</sup>。症状は多彩で，通常は舌の表面を中心にヒリヒリとした限局性の痛みを訴える。安永ら<sup>2)</sup>の舌痛症患者調査結果から舌痛の出現部位は，舌全体が10.7%と低く，舌尖が36.6%と高く，限局した軽度の疼痛が大部分であると報告している。本症例は，左側舌側縁部位に疼痛が出現していた(図)。また，発症患者の90%以上が女性であり，発症年齢は更年期以降の50～70歳代に集中していることが知られている。

発症原因としては，ビタミンB欠乏，鉄欠乏性

Key Words

難治性舌痛症  
更年期障害  
葛根湯

\* 旭川医科大学産婦人科(北海道旭川市)

表1 初診時までの治療経過

期間	医療機関	主訴	治療内容・経過
2001.1～ 2005.6	A産婦人科	発汗・頭痛・肩凝り・不眠	クロチアゼパム, ジドロゲステロン, エストリオール, 当帰芍薬散, 加味逍遙散 発汗以外は軽快せず
2002.7	B歯科	左上奥歯周囲病	奥歯2本および疼痛部の抜歯
2003.8	C耳鼻科	舌左側縁部ピリピリ感	含嗽薬 軽快せず
2004.2	D歯科口腔外科	左上埋没歯	抜歯, 舌痛の症状は軽快せず 舌痛症の診断
2004.9	E歯科口腔外科	舌痛	加味逍遙散, ヒドロキシジン, アセトアミノフェン, ロルノキシカム
2004.9	F麻酔科	舌痛	星状神経ブロック, 治療数日は軽快
2005.7			転居
2005.7	G歯科口腔外科	舌痛	ジクロフェナクナトリウム, セフトレキシム 軽快せず
2005.8～ 2006.3	H麻酔科	舌痛	星状神経ブロック, 治療数日は軽快

(舌痛症関連：C-H医療機関)

図 舌痛症の発生部位 (安永らの報告を改編)

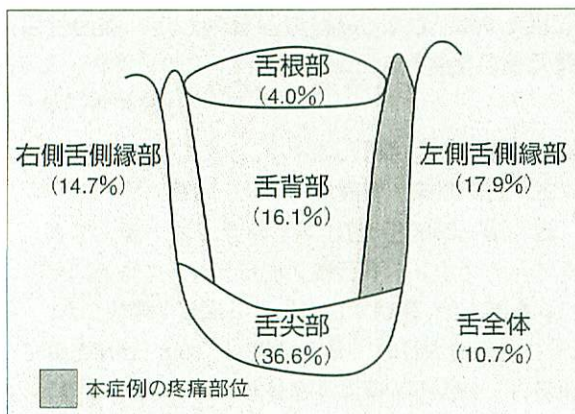


表2 舌痛症を生じる主な疾患

炎症：口内炎, 舌炎など
ビタミン, 鉄欠乏： 悪性貧血, 鉄欠乏性貧血, Plummer-Vinson syndromeなど
二次的ビタミンB欠乏： 肝硬変, 白血病, 再生不良性貧血, 顆粒球減少症, 膠原病など
口腔乾燥症：シェーグレン症候群, 体液電解質異常, 唾液分泌神経障害等
血管系変化：動脈硬化等
神経系変化：三叉神経痛, 舌咽神経痛等
精神的因子：心身症, 神経症等
その他：金属アレルギー等

貧血, 微量元素の欠乏, 感染症, 動脈硬化, 口腔乾燥, 心因性など(表2)の原因が考えられているが, 器質的変化を伴わないことより原因不明と判断されることが多い。また, 歯や義歯の尖った部分で舌に微小外傷が生じそれにより痛みを感じる場合も多く, 舌および舌周囲の十分な診察が重要との報告も認める。

舌痛症状を悪化させる要因としては口腔乾燥症が知られており, 口腔乾燥症を生じやすい薬剤

NSAIDs, 抗不安剤, 利尿剤, 制酸剤などの投与は注意が必要である。最近の報告では, 舌自体の感染症も発症に関与しているものと考えられており, 佐藤ら<sup>3)</sup>は舌痛症65症例の舌表面から菌検査を施行し, 64例に何らかの菌を検出し, 20症例が真菌を保持していることを報告している。彼らは, 抗真菌剤を処方し有効症例を認め, 除外診断として真菌対策を推奨している。

更年期を迎える50歳代以降の女性に舌痛症が多いことから, 女性ホルモンの影響も発症に関与しているものと推察される。更年期は, 女性ホルモンの低下が急激に起こり, 女性ホルモン作用の水分の保持が低下する。水分保持の低下は, 口腔内の保湿低下を引き起こし, 2次的に口腔内の感染(細菌感染, 真菌感染等)が発現して舌痛を引き起こしているものと考えられる。

本症例では, 舌痛症発症以前よりホルモン補充療法を施行しており, 当科での再度のホルモン補充でも舌痛が緩和しなかったことから, 女性ホルモンの減少から発現した舌痛症とは判断できなかった。本症例は, 50歳で発症し6施設の医療機関を受診していたが, 舌痛症状は軽快せず4年間舌痛に悩まされていた。

今回, われわれは, 既往内服薬を再検討し他の舌痛症緩和の薬剤を検討した。舌痛症の治療法としては, 表3の治療法が知られている。本症例は, 多種の西洋薬治療を施行していたが有効と判断できる処方が認められなかったことより, 既往内服以外の漢方薬治療を施行することとした。舌痛症に対する漢方薬として, 加味逍遙散, 十全大補湯,

表3 舌痛症に対する主な治療法

含嗽薬
抗真菌薬
向精神薬(抗不安薬, 抗うつ薬, 自律神経調整薬)
鎮痛薬
漢方薬
鍼治療
星状神経ブロック
簡易精神療法
その他(ビタミン剤, 鉄剤, 亜鉛剤, 唾液腺ホルモンなど)

白虎加人参湯<sup>ビャクコカニンジントウ</sup>, 補中益気湯<sup>ホチュウエキトウ</sup>, 葛根湯<sup>サイボクトウ</sup>, 柴朴湯などが有効であるとする報告がある<sup>4-8)</sup>。本症例は、表寒実証(八綱分類)で腹部は全体に緊張しており、肩凝りが強く、舌診上やや舌表面の赤みが強い印象を受けた。したがって、炎症性疾患および上半身の神経痛に効果が認められる葛根湯を選択した。葛根湯内服後(およそ2週目以降)、舌痛ならびに肩凝りの症状が軽快し、入眠が容易になり全身状態が良好となった。治療効果の指標となる消炎鎮痛および入眠剤の服用回数が減り続けており、葛根湯は、本症例の舌痛症状緩和に働いたものと考えられた。

本症例に対し葛根湯の作用機序を述べることは難しいが、葛根湯の効能として、頭痛、肩凝り、上半身の神経痛があり、作用機序として、PGE<sub>2</sub>に対する作用およびサイトカインに対する作用(表4)が報告されていることから、これらの作用が効果をもたらしたものと推測される。副作用は現時点において出現していないが、葛根湯は成分として麻黄が含有されていることより、長期投与による心疾患への副作用を十分に留意しなければならない(表5)。

本症例には、上記の副作用の内容について充分説明し外来対応している。今後の方針として3ヵ月間(投与1年間)は同量を継続投与し、症状に応じて減量する予定である。今回、難治性舌痛症に葛根湯が著効した症例を経験した。難治性舌痛症に対し症状および証に応じた漢方療法を試みることは、一つの治療法になるものと推察された。

## 結語

舌痛症は、舌に器質的な変化が無いにもかかわらず

表4 葛根湯の組成・効能・作用機序

組成	カッコン, タイソウ, マオウ, カンゾウ, ケイヒ, シャクヤク, ショウキョウ
効能	自然発汗がなく頭痛, 発熱, 悪寒, 肩こり等を伴う比較的体力のあるものの次の諸症(感冒, 鼻風邪, 熱性疾患の初期, 炎症性疾患, 肩こり, 上半身の神経痛, じんましん)
作用機序	1) プロスタグランジンE <sub>2</sub> (PGE <sub>2</sub> )に対する作用 2) サイトカインに対する作用

表5 葛根湯の副作用

1) 偽アルドステロン症
2) ミオパシー
3) 肝機能障害, 黄疸
4) 発疹, 発赤, 癢疹
5) 不眠, 発汗, 頻脈, 動悸, 全身脱力感
6) 食欲不振, 胃部不快感, 悪心, 嘔吐
7) 排尿障害

らず、慢性的疼痛を訴え診断や治療に苦慮する。今回、難治性舌痛症を合併する更年期障害を主訴とした患者に、葛根湯の投与で舌痛が非常に軽減した症例を経験した。葛根湯の作用としての消炎作用ならびに上半身の神経痛への効果が諸症状の改善を呈したものと考えられる。

本症例経験より、難治性舌痛症に対し葛根湯処方是有用な治療法の一つと考えられた。

## ●文献

- 1) 日本歯科心身医学会編：歯科心身医学，第1版，医歯薬出版，東京，2003
- 2) 安永二良，永井 格，関口 隆，他：舌痛症158例の臨床検討。日本口腔外科学会雑誌，43：852～854，1997
- 3) 佐藤田鶴子：再発性舌炎の基礎と臨床。Jpn J Med Mycol，45：233～237，2004
- 4) 中村典史：舌痛症。今日の治療指針，1090～1091，2007
- 5) 桐田忠昭：舌痛症と漢方。Tsumura Medical Today 口腔疾患編③
- 6) 兵東 巖：舌痛症に対する漢方薬の使用経験。日東洋医誌，51：437～446，2000
- 7) 鈴木国興：舌痛症への東洋医学的アプローチ。MB ENT，58：55～59，2006
- 8) 高橋雄三：舌痛症Glossodynia. The Quintessence，24(6)：194～197，2005